

案

平成29年1月 日

阪南市長 水野 謙二 様

阪南市総合計画審議会
会長 久 隆 浩

阪南市総合計画後期基本計画について（答申）

平成28年7月4日付け、阪み第109号にて諮問のありました「阪南市総合計画後期基本計画」について、慎重に審議を重ねた結果、原案の一部を修正・加筆し、本計画の推進にあたって配慮すべき事項を付し、別添のとおり答申いたします。

記

1. 協働によるまちづくりの推進

総合計画に掲げられた将来の都市像を実現していくためには、市民・事業者・行政など多様な主体が信頼を深め、協働によるまちづくりを推進していくことが重要である。

そのため、前期基本計画中においては、市民活動センターの機能強化や、行政の支援を受けず、まちで活動する市民の掘り起しなど一定の成果がみられたが、より一層の協働によるまちづくりを推進するため、各主体がまちづくりを「わがごと」と自覚するよう意識改革に努められたい。

また、それぞれが求められる役割を果たしつつ、各施策を効果的に進められるよう、計画に定めた内容をわかりやすく、様々な機会や手段を通じて本計画の周知を図るとともに、情報共有を積極的に行うなど、市民・事業者・行政など多様な主体が相互に連携・協力できるよう努められたい。

2. 協働のしくみづくり

協働の取り組みを推進するにあたっては、地域の多様な主体が積極的に参画し、それぞれの力が発揮できるしくみや環境づくりが求められるところである。

そのためには、まず、行政の役割を再確認し、事務事業の実施にあたっては、これまでのプレイヤーではなく、コーディネート機能を発揮することに力点を置き、市民や事業者の能力を最大限に引き出すことができるように努められたい。

3. 阪南市らしさ、魅力向上

活気と魅力あるまちとするためには、豊かな自然や歴史・文化に囲まれた地域環境や人材といった様々な地域資源を活用するなど、阪南市の地域性や特徴を“強み”として一層活かし、多様な主体との協働のもと、引き続き阪南市らしさがあふれるまちづくりに努められたい。

また、阪南市のイメージやブランド力の向上、産業の活性化など新たな魅力を創造し、阪南市総合戦略にも掲げている「誰もが住みたい、住んで良かった」など阪南市に愛着と誇りを持つ人や事業者を増やすまちづくりに取り組まれたい。

4. 計画の進行管理

本計画の成果指標においては、毎年度効果測定が可能でかつ、実現性の高いストレッチ目標に見直したことなども踏まえ、より実効性の高い精緻なPDCAサイクルに基づく進行管理に努められたい。

また、基本計画の成果指標や実施計画による施策・事務事業の達成状況等を評価・検証するなかで、適宜見直しを図るとともに、引き続き市民参画機会を提供するなど、計画の進捗状況が市民にわかりやすく説明できるよう努められたい。

5. 持続可能なまちづくり

本計画の実効性を確保し、市民視点に立った行政運営を展開するためには、行政は限られた経営資源のなかで職員の資質や能力向上を図り、組織・施策間の連携に取り組むとともに、自ら果たすべき役割を効率的・効果的に果たすなど、より一層の「選択と集中」による施策展開や効果の高い施策の実施に向け、重点的・分野横断的な取り組みをはじめとした戦略的な行政経営を推進し、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な発展あるまちづくりに努められたい。

6. 次期総合計画の策定について

次期総合計画の策定にあたっては、より明確に政策展開を行うため、総合計画の計画期間と市長任期の期間を連動させることをはじめ、市長公約とマネジメントサイクルとの整合や計画の階層区分など、総合計画のあり方について、次期総合計画の策定までに必要な検討をされたい。